



佐久の札所

第24番札所 生往院 (しょうおういん)

長野県南佐久郡佐久穂町大字高野町41番地



生往院は山号 終南山、宗派は浄土宗。

筑後善導寺の良忠上人の弟子である寂恵上人が開いた道場が起源と言われ、室町時代の文明2年（1470年）に本堂が建立され、生往院が開山された。

江戸時代に、徳川家の菩提寺である増上寺の末派となった。

山門前には珍しい筆塚と石仏があり、石仏は「歯痛止めの弥勒様」と呼ばれ、歯が痛い時に一つの呪文を唱えて弥勒様に願うと、立ちどころに痛みが止まると言われている。



もくじ

支部長あいさつ	2
建築課長あいさつ	3
新年講演会	4
能登半島地震復興プロジェクト	5
委員会活動について	6～8
着任のご挨拶	9
佐久市総合防災訓練	10
賛助会員の紹介	11

支部長挨拶

公益社団法人 長野県建築士会佐久支部 支部長
高橋 三七人



この度、支部長として二期目を務めさせていただくことになりました。再びこのような重責をお預かりすることとなり、改めて身の引き締まる思いでございます。会員の皆様をはじめ、関係諸機関の皆様の温かいご支援と、ご理解ご協力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

建築士会は、建築士の資質向上、建築文化の振興、そして安全で豊かなまちづくりの実現を目指して活動を重ねてまいりました。昨年度も、会員の皆様の多大なるご尽力により、講習会や技術研修、地域との連携事業など多くの活動ができました、改めて厚く御礼申し上げます。

一方、私たちを取り巻く建築・社会環境は日々変化を続けています。特に今年の建築基準法・省エネ法の改正は大きな変化になります。地球温暖化によるものなのか、世界的に気候変動による災害リスクの増大、少子高齢化と空き家問題、脱炭素社会の実現に向けた建築分野での貢献など、建築士に求められる役割はますます多様化し、専門性のみならず社会的責任も問われているように思われます。このような社会的要請に応えるべく、我々建築士の果たすべき役割は益々重要になっております。建築という仕事は、単に「もの」を設計・施工するだけではなく、「ひと」と「まち」との関係を深め、安全・安心で豊かな生活環境を創造するという大きな使命を担っています。

地域の防災・減災活動への参加や次世代に向けた人材育成、さらには会員の技術向上を図る研修の拡充など、多くの課題があります。これらを展開していくにあたり、役員の皆様をはじめ、各委員会や会員の皆様との積極的なご協力をお願い申し上げます。

今後は、これまでの活動をさらに深化させるとともに、「地域社会との連携強化」・「若手建築士の活躍推進」・「デジタル化への対応」、そして「今後の建築士会のあり方」など取り組むべき課題があります。

地域社会との連携は、地方公共団体・学校・企業などと、より密接に連携し、建築士会としての社会的貢献をより一層明確に発信してまいりたいと思います。特に、災害時における応急危険度判定や住宅相談など、我々が果たせる役割を具体的な形で地域に届けることが求められています。

会員減少が続くなか、会の将来を担う若手人材の活躍の場を広げることは、持続可能な組織づくりにおいて不可欠です。会員・賛助会員の交流を活性化させ、若手の自由な発想と行動力を活かし、会の活動に新たな風を吹き込むような仕組みづくりを進めてまいります。

またデジタル時代の今日、B I MやI C Tの活用など、建築分野においてもデジタル技術の進展は目覚ましいものがあります。今後の建築実務に不可欠となる技術に関して、会員の皆様が安心して学べる環境づくりを進めていきたいと考えております。

そして何よりも、建築士としての「倫理」と「社会的責任」の意識を常に忘れず、公正かつ誠実な姿勢をもって、業務に取り組む姿勢を再確認することが重要であると考えております。今後建築士会が、地域に根ざし、建築の専門家集団として信頼され続ける存在であるよう、役員一同力を合わせて取り組んでまいります。引き続き、会員の皆様お一人おひとりのご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

着任のご挨拶

長野県佐久建設事務所 建築課長
小林 博幸



このたび4月の人事異動で、佐久建設事務所建築課長として着任いたしました小林博幸と申します。

建築士会佐久支部の会員の皆様には、日頃から本県の建築住宅行政の推進に多大なご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。また、空き家相談など各種の活動を通じまして、まちづくりや地域の活性化に寄与され、建築士の社会的地位の向上にご尽力されていることに敬意を表する次第です。

佐久は私の出身地であり、現在もこの地に住まいを構えております。平成12年、平成21年、平成30年と今回で4度目の勤務となり、地元で再び業務に携われることを大変嬉しく、また身の引き締まる思いであります。これまでの経験を活かしながら、地域の皆様とともに、安心・安全なまちづくりに貢献できるよう努めてまいります。

今年4月には改正建築基準法・改正建築物省エネ法が施行され、建築確認申請の実務にも大きな影響を及ぼしています。特に「4号特例の縮小」や「省エネ基準の適合義務化」など、設計・確認のプロセスが厳格化されたことで、現場では戸惑いや対応の難しさも見受けられます。実際、改正法施行後の建築確認申請件数は全国的に落ち込み、長野県においても今年度の新設住宅着工戸数が対前年比で約22%減少するなど、深刻な影響が出ております。平成19年6月の法改正時にも同様の傾向が見られ、持ち直すまでに3年ほどかかったと記憶していますが、今回は一時的な混乱にとどまり、1日も早く持ち直すことを心より願っております。

次に佐久地域の課題ですが、住宅の耐震化がありま

す。長野県耐震改修促進計画（第Ⅲ期）も今年度で最終年度になります。住宅の耐震化率92%を目標としていましたが、令和5年に総務省が実施した住宅・土地統計調査によると、令和5年の県内の住宅耐震化率は約86%、全国が約90%ですので、それより低い数字となっています。佐久管内の具体的な数字は公表されていませんが、前回公表された平成30年度の数字では、県内の他地域に比べて決して高い数字ではありませんでした。しかしながら、昨年度に診断された件数は、全県で1,562件に対して68件、耐震改修工事は235件に対して3件、除却工事は73件に対して0件となっています。建替えであれば、除却と信州健康ゼロエネ住宅の新築を合わせると、最大で約298万円の補助になりますので、ぜひともご利用いただきますようご協力をお願いいたします。

建築確認申請が平成11年に指定確認検査機関で審査できるようになり、平成30年度からは長野県建築住宅センターでも審査できるようになったことから、当所での民間の割合は約88%となっております。皆様が当課にお越しになる機会も減少しておりますが、既存建築物の耐震対策や応急危険度判定など、今後も皆様のご協力をいただかなければ円滑に建築行政を推進することは困難です。会員の皆様が、お気軽に建築課にお越しいただけるような環境を整えてまいりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

結びに、公益社団法人 長野県建築士会佐久支部の益々のご発展と、会員の皆様方のご活躍をご祈念申し上げ、着任のご挨拶とさせていただきます。

新年講演会 「これからの住宅のありかた」～省エネ・防災等々

公益社団法人 長野県建築士会佐久支部 副支部長 **山田 功**

講師：湯本 和正 氏

公益社団法人 長野県建築士会理事

2月7日、佐久グランドホテルにおきまして、新年講演会が開催されました。今までは、一般の参加者を募る意味もあり、建築にこだわらないテーマで複数の講師をお招きして講演を行ってききましたが、本年は4月からの大きな法改正を前に、会員の法改正への疑問や不安を抱えているなかで、長野県建築士会理事、防災委員長の湯本和正様を講師にお迎えして「改正建築基準法」の講習会が行われました。

今までの「4号建築物の特例が廃止」、「省エネ基準の適合の義務化」、また近年多発している「自然災害への対応」等、多くの内容を実際の経験を交えながらのわかりやすい説明と実例を交えてのお話をされ、業務の上でとても役に立つ講習会となりました。

既に法改正が施行され、日々の実務の中で新たな疑問や問題点が発生する中で、湯本様は本会の「建築士サポートセンター」でもアドバイザーとして働かれています。



能登半島地震復興プロジェクト（土蔵造り店舗再建）

情報広報委員会 新津 史也

私の勤務する有限会社 新津技建では、2025年5月より石川県七尾市にある「高澤ろうそく店」再建事業が始まりました。高澤ろうそく店は創業130年以上にもなる老舗和ろうそく店で国登録有形文化財にも指定されています。能登半島地震から1年半、公費解体が相次ぐなか能登復興への灯火として建築構造学の専門家や文化財保全に取り組まれてきた建築家らと工期1年半に渡る大規模改修工事を進めていく予定です。

6月には輪島を訪問し、店舗復元のため地元大工の方から仕上げ材に用いられる「拭き漆」を学び、伝統建築の奥深さをあらためて実感しています。建材はできる限り地域材を使用し、土壁など再利用可能な自然素材は粘土質の高い土に戻してから施工するなど100年後の未来を見据えた再建ができるよう努めています。今回の再建事業を通じて能登復興を願うと共に職人の底力というものを見せていきたいと思っています。



地鎮祭



現地調査



解体前の写真



拭き漆

令和7年度

新任挨拶

総務企画委員長 箕輪 義則

本年度より、総務企画委員長を務めさせていただく事となりました、川西地区の箕輪と申します、よろしくお願いいたします。

今年度、担当委員会の事業の見直しがあり、総務企画委員会としては、委員拡大事業・東信ブロック事業の実施・支部会員と賛助会員の親睦事業・親睦ゴルフ大会（支部、東信、県）などが主な担当事業のようですが、合わせて今年度は「会員の手引き」の見直し作業があるかと思えます。

長く幹事を務めさせて頂き又、総務委員会にも在籍させて頂いておりましたが、委員長という立場は当然初めてであります、いざ委員会一つ開催するにあたって「さて？」という事ばかりで、今までの上原前委員長や、またその前の委員長さんたちのご苦勞が一気に感じられる様になりました。然しながら、歩を進めぬわけにはいきませんので、支部長はじめ委員の皆様にお教えいただき、又はご協力頂きながら頑張って運営をしていきたいと思えます。会員拡大と賛助会員との交流事業などは両方を合わせた形でのイベント等の開催とか従前に行われていた事業についても前任の方たちにご指導いただき、しっかりと引き継いで行きたいと思っています、その中で何かしらのスパイスを入れる事ができれば楽しいかなとも考えます。

何方にせよ、委員の皆様のご協力はもとより会員全員の皆様のご協力がなくとも佐久支部の活動は立ち行かなくなってしまうと思います。

不慣れな事ばかりで、ご迷惑をお掛けする事も多々あるかと思いますがなにとぞよろしくお願い申し上げます。



令和7年度

A I 利用について

教育事業委員長 鎌田 賢太郎

令和7年度より教育事業委員長を務めさせていただくことになりました、鎌田賢太郎です。微力ではありますが、会の活動を通じて皆さまのお役に立てるよう精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

近年、建築を取り巻く社会的なニーズはますます多様化・高度化しています。省エネやカーボンニュートラル、自然災害への備え、空き家や地域資源の活用、さらには建築DXなど、新たな技術や制度への対応が求められる場面も増えてきました。こうした変化に柔軟に対応していくためにも、学び続ける姿勢と、仲間同士での情報共有が非常に重要だと感じています。

本年度の教育事業委員会では、実務に役立つ内容はもちろん、楽しく学べて気軽に参加できるような講習会や見学会を企画してまいります。世代を問わず、多くの会員の皆さまに「行ってよかった」「また参加したい」と思っただけのような場づくりを心がけていきたいと考えています。

また、地域社会との連携や、若手・学生との交流といった新しい取り組みにも挑戦していきたいと思っています。次世代を担う若い人たちにとって、建築士という仕事がより魅力的に映るよう、支部としてできることを模索してまいります。

ご意見やアイデアはいつでも大歓迎です。どうぞお気軽にお声がけください。一年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

というあいさつ文をChatGPTが1分で作成してくれました。

「A I（人工知能）を日々の業務へどのように活用していくことができるか？」

まだ企画段階ですが、今年はそんな講習会を予定しています。

知りたいこと、わからないことを一緒に学ぶ。そんな学びの場を提供できる委員会としたい所存です。

ChatGPTのあいさつ文が上手すぎるので、僕のあいさつの拙文は割愛させて頂き、改めまして、不慣れな委員長ではありますが、よろしくお願い申し上げます。

令和7年度

地域貢献委員会活動について

地域貢献委員長 甘利 佐賀男

今年度より地域貢献委員会の委員長を務めさせて頂くことになりました、甘利佐賀男と申します。ここ数年、仕事の都合で地域貢献委員会の活動にほとんど参加出来ませんでしたが、これではいけないと思い、心機一転、再挑戦の思いで委員長の任を受けることにしました。宜しくお願いします。

さて、地域貢献委員会の活動ですが、今年度から組織の再編成に伴い、地域まちづくり委員会の活動も併せて行うことになりました。

活動内容としては、恒例となりましたウッドクラフトを11月の前半に予定しています。ここには建築士会上小支部の方々にも参加をして頂く為の協議を進めています。

次に「防災マップ」の整備についての活動ですが、前年度にPDFデータ化の作業が一応終了との報告を小泉前委員長より伺っております。今年度は総務委員会からの要請に基づいて、更に「防災マップ」の利便性を高め、各自治体に有効活用して頂くように連携を深めてゆく活動になるとのことですが、私自身が初めての事なので「防災マップ」について理解が浅く、委員会各位及び関係者からアドバイスとレクチャーを受けながらの活動になると思います。

最後に地域まちづくり委員会から引き継いだ既存住宅状況調査（インスペクション）の活動ですが、当委員会内でも初めての事となりますので、本会と連携をとり指示を仰いでの活動になります。どのように進めてゆけば良いかを検討し、焦らずじっくりと対応してゆければと思っています。いずれにしても当委員会ですべて完結できることは少なく、佐久支部の皆様にご協力をお願いすることが多いかと思いますが宜しくお願いいたします。



令和7年度

新年度の活動について

情報広報委員長 櫻井 和也

本年度から、情報広報委員長を仰せつかりました櫻井和也です。

情報委員会では、年2回の会報「ちくま」の発行と、ホームページの運営を主に活動してまいります。

会報「ちくま」は現在、紙の媒体で発行しておりますが、印刷代、郵送料等のコストの問題もあり、電子化の方向で検討を始めます。郵送料に関しましては、「建築士」及び「建築士ながの」の関係もありますので、「ちくま」単独で対応できる課題ではありませんので、まずは電子化から取り組んでまいります。

ホームページは、昨年リニューアルが完了しておりますので、どのように運用していくかが今年度の課題となります。タイムリーにいろいろな情報発信をしていければと考えております。

勉強会も、年4回予定しておりますので、ホームページにご興味があり、情報を上げたいとお考えの方は、勉強会にもご参加お願い致します。

各イベントの取材にもお邪魔したいと考えております。その折は何卒宜しくお願い致します。



////// 令和7年度

青年女性委員会の活動について

青年女性委員長 今井 直利 //

本年度より青年女性委員長を務めさせて頂くこととなりました今井直利と申します。

昨年度までは青年女性委員、地域貢献委員として活動を行ってまいりましたが委員長という大役を拝命致しました。

私は長野県建築士会に入会して9年目となります。

建築士会という組織の状況等が理解できていないこともあり、至らない点もございますが諸先輩方のアドバイスを頂戴しながら青年女性委員会として活動が継続できるように頑張りたいと存じます。

本年度、当委員会の活動としましては若手建築士の発掘そして会員増強の為、魅力的な見学会と交流会の企画・実施と他支部の協力を得てイベントとして『積み木等』の実施を行いたいと考えております。

地域の建築士として県産材の利用はこれからの課題だと思いますので、子供から大人まで夢中になれる積み木や木工イベントを行い、木に触れて、木の良さを知って貰い少しでも家づくりに興味が湧いて地域の方々の認知度が向上すればと思っています。

佐久支部も若手建築士が少ないので他支部の協力を得てイベント実施は良い情報交換の場にもなるかと考えました。

最後に会員の皆様、賛助会員の皆様、ご多忙かと思いますがこれからの活動にご理解、ご協力をお願い申し上げます。



唐松（県産材）



唐松（県産材）



唐松（県産材）



唐松（県産材）

着任のご挨拶



長野県佐久建設事務所建築課課長補佐

西村 剛

このたび、佐久建設事務所建築課に着任いたしました西村剛と申します。今年度の担当地区は軽井沢町です。会員の皆様には、日頃より長野県の建築住宅行政に多大なるご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

現在、長野市に居住しており、佐久平駅を經由して新幹線通勤を始めました。これまでの勤務では、県営住宅の建替え事業や合同庁舎・県立高校の改修事業など、官庁営繕の分野に主に携わってまいりました。そのため、建設事務所での業務はこれまでとは環境が大きく異なり、気を引き締めて取り組んでいるところです。

佐久合同庁舎での勤務は、県職員として採用された際の初任地以来となります。当時、面識のあった会員の皆様のことは今でも記憶に残っており、非常に感慨深い思いであります。若かりし頃は、佐久市恒例の競歩大会に参加して韭崎から佐久まで歩いたり、小海町の氷上トライアスロンに挑戦したり、野球チームでプレーしたりと、体を動かすことを趣味として楽しんでおりました。現在では腰痛に悩まされ、階段の昇降も避けるようになり、体力の衰えを痛感している今日この頃です。

一方、通勤途中に目にする佐久市内の風景は、中部横断自動車道や国道141号バイパスの開通、さらには松本圏域との連絡道路構想の浮上など、街並みが大きく進化しており、自身の変化とはまさに対照的な印象

を受けております。

改めて、建築という分野が社会基盤整備の一翼を担い、人の一生とは比べものにならない長期的な視点で評価されるものであることを再認識しております。私たちは規制業務等を通じてこの分野に関わっておりますが、ゼロカーボンの実現に向けた法改正や森林保全・再生に向けた県条例の制定など、施行期の混乱に左右されることなく、長期的な視点に立って円滑な運用に努めていく必要があると、改めて感じているところです。

最後になりますが、貴会のさらなるご発展と、会員の皆様のご健勝・ご多幸を心よりお祈り申し上げ、着任のご挨拶とさせていただきます。



国道299号道の駅「八千穂高原」

2025年佐久市総合防災訓練

櫻井 和也

2025年8月9日、令和7年度の佐久市総合防災訓練が「佐久市内で最大震度6弱の地震が発生した」という想定で行われました。

公益社団法人長野県建築士会佐久支部では、協定に基づき、高橋支部長以下21名の建築士会会員の応急危険度判定士が参加して、開設予定避難所の応急危険度

判定を行いました。

8時15分に情報伝達が行われ、今年は、浅間体育センターと東地区社会体育館の2か所を、2班に分かれて判定を行いました。

今後とも、訓練に参加して、緊急事態に備えていければと思います。



情報伝達



建物内部安全確認



柱の傾斜測定



柱の傾斜測定



判定ステッカー掲示



判定終了

賛助会員の紹介

株式会社 本久

公益社団法人 長野県建築士会佐久支部の皆様には、平素より格別のお引き立てを頂き、厚く御礼申し上げます。

弊社は1717年に問屋として創業し、建設資材事業だけでなくレジャー・外食・石油と多岐に渡って地域に貢献して参りました。グループ社員も2,500名を超え、よりお客様のニーズに応えられるよう社員一同努めて参ります。

建設資材事業においては、8つの部署を設けております。外装工事や景観商材・スポーツ関係の工事を御提案しております「建築景観事業部」。杭工事や地盤改良工事の御提案をしております「基礎建設事業部」。橋梁補修工事や外構工事を御提案しております「建材部」。施設設備関連の自動制御工事を御提案しております「計装技術部」。道路舗装工事を御提案しております「製品部」。アスファルト合材や生コンを製造・販売しております「製造事業」。鋼材の販売と鉄骨工事を御提案しております「鉄鋼部」。住設機器をはじめとした上下水道資材等の御提案をしております「管材部」。県内各地に拠点を設け、地域に密着した活動を行っております。

弊社は専門工事業者として、各部署に施工管理者を配置しており、施工品質と安全管理を意識し、より現場が円滑に進むよう体制を整えております。今後も皆様に安心して任させて頂ける施工を心掛けて参ります。

最後に公益社団法人 長野県建築士会佐久支部の皆様の益々の御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。



賛助会員の紹介

株式会社 司硝子

公益社団法人 長野県建築士会佐久支部会員の皆様におかれましては益々のご清栄のこととお慶び申し上げます。株式会社司硝子代表取締役黛彰也でございます。

弊社は昭和56年設立（創業は昭和42年）、今年で44周年を迎えます。父が初代、私が2代目として代表取締役を務めさせていただいております。これまで長い間事業を続けてこられましたのも多くの関係者の皆様に支えられてきたからこそと感謝しております。この場をお借りいたしましてお礼申し上げます。

現在弊社は役員2名、社員4名計6名で業務を営んでおります。私は東京で学生時代を終えたとき、父の「帰ってきて手伝え」と言う一言に対し何も迷いもなく従い、佐久へ戻ってきて父の会社に勤め始めて20数年が経ち、今に至ります。後を継ぐことにより良い経験をさせていただきました。学生時代から休みの時はアルバイトがてら手伝いをしていたこともあり慣れるまではそう時間はかからなかったものの、やはり倉庫で作業するのと現場作業では一味違う環境ということもあり戸惑いもありましたが、建物が出来上がるまでの経過も見られて、またそれを楽しみながら日々鍛錬してまいりました。有能な社員にも恵まれ毎日業務に励むことができております。

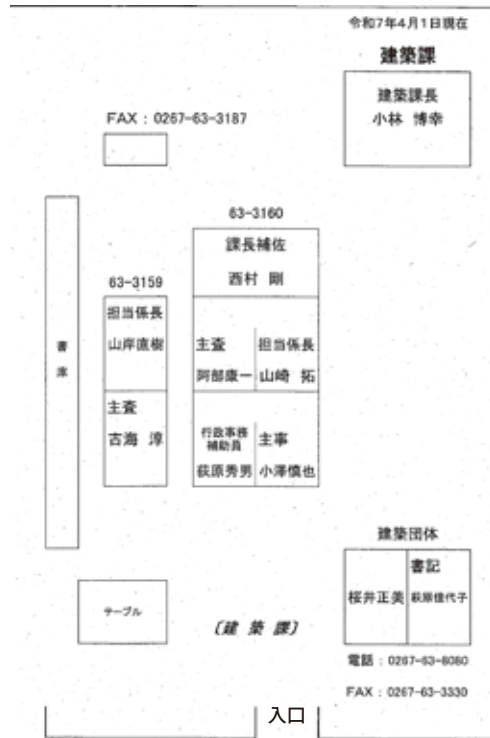
弊社はガラス工事、建具工事を主にその他建築業許可を取得して営業も行っております。佐久の発展とともにこれまで携わってきた物件は佐久の窓口でもありますJR佐久平駅をはじめ浅間病院、佐久市こども未来館、長野県立武道館、佐久警察署、佐久合同庁舎、佐久平浅間小学校、佐久平交流センター、佐久市市民創錬センター、佐久市立近代美術館などの他、軽井沢町が隣接しておりますので別荘も数多く手がけております。特に別荘では5m×2.5mもの大きなガラスを施工することもあります。流石にここまで大きいものとなると上手に収めるには経験値が必要です。

今後も日々是成長、ひとりひとりが責任者の思いで自社技術力の向上をもって地域の皆様に貢献できる企業を目指してまいります。宜しくお願い致します。

最後に公益社団法人 長野県建築士会佐久支部会員の皆様の益々のご活躍、御発展をお祈り申し上げます。

その他市内施工事例	事業内容
*新白田統合小学校	*ガラス工事
*道の駅ヘルシーテラス佐久南	*建具工事
*東会館	*大工工事
*浅間会館	*屋根工事
*野沢会館	*板金工事

佐久建設事務所 建築課 配置図



***** ●編集後記● *****

21番 熊野山 22番 籠の宮 は廃寺で 23番 布杭岩も所在地を探すことができず73号では、24番の生往院さんを掲載させていただきました。撮影は7月26日で、ちょうど高野町の祇園祭で、赤い提灯が飾られ、山車の準備中でした。

祇園祭は佐久穂町 高野町地区に古くから伝わる、無病息災や五穀豊穡を願う伝統行事です。今年も豊作でありますように。
K. S



祇園祭 山車



本堂向拝見上げ



山門 側面



山門 正面

会報『ちくま』第73号 2025／9

発行者：(公社) 長野県建築士会 佐久支部
情報広報委員会

事務局：〒385-8533 佐久市跡部65-1
佐久建設事務所内

TEL 0267-63-8080

FAX 0267-63-3330

E-mail : ken8080@seagreen.ocn.ne.jp

支部HP http://www.aba-saku.com/

印刷：ヨダ印刷サービス株式会社

TEL 0267-22-3330